

自閉症スペクトラム ワークショップご案内

○平成24年11月3日(土) 10:00~16:00

9:30 ~ 受付

「9つの重要なコミュニケーションスキルの指導」

○平成24年11月4日(日) 10:00~16:00

9:30 ~ 受付

「アスペルガー症候群：重要な特徴と効果的な指導」

○講師 今本 繁 氏

(ピラミッド教育コンサルタントオブジャパン代表)



○場所 地域交流ホーム「虹」

(帯広市西25条南4丁目10：つつじが丘学園敷地内)

○参加費 1日のみ参加 : 6000円

2日間とも参加 : 10000円

○申し込み xyuzy@bird.ocn.ne.jp

名前、所属、ご連絡先の電話番号、参加希望日を明記の上、件名を「ワークショップ申込み」としてお申し込み下さい。50名定員。先着順。
(お問い合わせ：090-6216-5984：清末)

「9つの重要なコミュニケーションスキルの指導」

自閉症スペクトラムの方のコミュニケーションスキルが指導目標になることはよくあることです。しかし「困ったら言ってね」と伝える程度では実際に困っても「先生手伝ってください」とは言っていないケースもあります。「ちょっと待って」に適切に反応できないケースは知的に遅れのない人の場合でも聞かれる課題です。視覚的スケジュールはどのように導入するとよいのでしょうか？

このワークショップは、日常生活をおくるうえで必要となる9つのコミュニケーションスキルについて、どのように子どもたちに伝えていくとより良いのか学ぶものです。上記のような「手助けの要求」「休憩の要求」「『待って』への反応」「視覚的スケジュールに従う」なども含まれます。子どもがこれらのスキルをうまく使えない時に、深刻な問題行動が起こりやすくなることも知られており、これらのコミュニケーションスキルを効果的に指導することはとても重要です。

「アスペルガー症候群：重要な特徴と効果的な指導」

アスペルガー症候群の方の教育上の問題とニーズについて、応用行動分析のアプローチから説明します。応用行動分析とは「行動を形成する」ことを体系的に整理した学問のことです。

このワークショップでは、アスペルガー症候群の方の特性についてポイントの絞って確認しながら、特に「コミュニケーション」「ソーシャルスキル」「セルフマネジメント」の領域での予防的方法論に焦点を当てています。具体的にはどのようにかわかることでよりよく、こういった大切な領域の「行動を形成する」ことができるのか学びます。

○講師紹介

今本 繁（いまもと しげる）

教育学修士 臨床心理士

ピラミッド教育コンサルタントオブジャパン株式会社 代表取締役・コンサルタント

東京工科大学工学部機械制御工学科卒業後、広島大学や筑波大学の研究生を経て、筑波大学大学院博士課程心身障害学研究課に入学し行動療法の大家である小林重雄教授に師事する。

修士号取得後は、知的障害者通所施設（社）大野城すばる園（野口幸弘園長、現西南学院大学教授）、国立肥前療養所（現、肥前精神医療センター）にて心理療法士として勤務後、ウェスタンミシガン大学行動分析学夏期研修、ノースカロライナ大学TEACCH部で1年間のインターン研修を経験。

帰国後、西南学院大学に専任講師として4年間勤務。2003年ボンディ博士・フロスト女史のワークショップより行動を共にして実践を開始した。2006年5月にPECS（絵カード交換式コミュニケーションシステム）の普及を目指して会社を設立し現在に至る。

主な著書

「アスペルガー症候群と高機能自閉症」（共訳）エンパワーメント研究所

「対人支援の行動分析学 - 看護・福祉職を目指す人のためのABA入門」（共著）ふくろう出版

「絵カード交換式コミュニケーションシステムトレーニングマニュアル第二版」（共訳）（株）フロム・ア・ヴィレッジ

主催：道東PECS研究会

共催：北海道自閉症協会十勝分会

NPO法人インクルード

NPO法人めむの杜

NPO法人放課後生活支援センターわいわいクラブ

後援：十勝特別支援教育推進ネットワーク協議会

北海道特別支援教育学会 十勝支部